

付録 34

純潔（処女性）

真の信者の息子や娘たちは、自分たちの一生の幸福が、神の法に従い純潔を守ることにかかっていると教えられなければならない。

これは、自分自身を配偶者のためだけに保ち、性的な意味で他の誰にも触れさせてはならないという意味である。(23:5-6、24:30、33:35、70:29-30)。

現代社会には強い誘惑があふれている。1980年代のアメリカ社会では、親が娘にボーイフレンド、息子にガールフレンドの話をする事さえあった。子どもが十代になると、多くの親が避妊手段を与える事さえある。十代の若者の中には、身体的に成熟していないにもかかわらず、また道徳的な制限もないまま、性的活動を行っている者が非常に多くいる。米国では、毎月、何百万もの望まない妊娠とそれに伴う悲劇、そして何百万もの悲劇的な中絶が起きている。この道徳的崩壊の結果として、望まれず支援も受けられない子どもたち、怠慢で無責任な父親たち、他人の生命や財産を尊重しない犯罪者たち、社会に適応できない多くの人々、治療不可能な性器ヘルペス、治療困難な性器いぼ、深刻な梅毒や淋病、異形成、致命的なエイズ、そしてこれまで知られていなかった新しい病気などが挙げられる。

多くの人が知らないのは、この道徳的崩壊が人生を通じて大きな代償を伴うということである。なぜなら、この世界を支配する唯一の法は神の法であり、神の法に対する明白な違反は、多くの苦しみと問題をもたらすからである (20:124)。

子どもを大切に思う真の信者は、子どもたちに対して繰り返し、根気強く助言し (20:132)、純潔を守るよう思い起こさせる。これは、結婚の夜まで処女性を守り、その後は配偶者に忠実であり続け、姦通を犯さないことを意味します。それは本人の幸福のためです。

結婚前も結婚後も純潔を守るようにという神の助言は、私たち自身の益のためなのです。神こそが、私たちの健康、富、幸福、あるいは不幸を支配される方である。(53:43、48)。